令和３年４月 22 日（第１号）

ヨーロッパザラボヤ関係調査結果

※北海道ほたて漁業振興協会からの受託研究で実施

道総研中央水産試験場

◎ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査

４月 12 日に祝津ホタテ養殖漁場の「かみ」、「なか」、「しも」、の３カ所で、表層から水深 30m まで 3 層にわけて浮遊幼生調査を行いました。調査の結果、**ザラボヤの浮遊幼生は確認されませんでした**（表１）。

表１：ヨーロッパザラボヤ浮遊幼生調査結果

場所	水深	水温【℃】	クロロフィル【μg/L】	ザラボヤ	
				個	個/ﾄﾝ
かみ	0～10m	8.0～8.3	0.4～2.2	0	0
	10～20m	8.0～8.2	1.4～2.0	0	0
	20～30m	7.5～8.0	1.2～1.9	0	0
なか	0～10m	8.1～8.2	0.5～1.8	0	0
	10～20m	8.1～8.2	1.5～2.0	0	0
	20～30m	7.5～8.1	1.5～2.3	0	0
しも	0～10m	7.9～8.3	0.5～2.9	0	0
	10～20m	7.6～8.0	1.2～2.4	0	0
	20～30m	5.4～5.5	1.0～1.9	0	0

【参考資料】

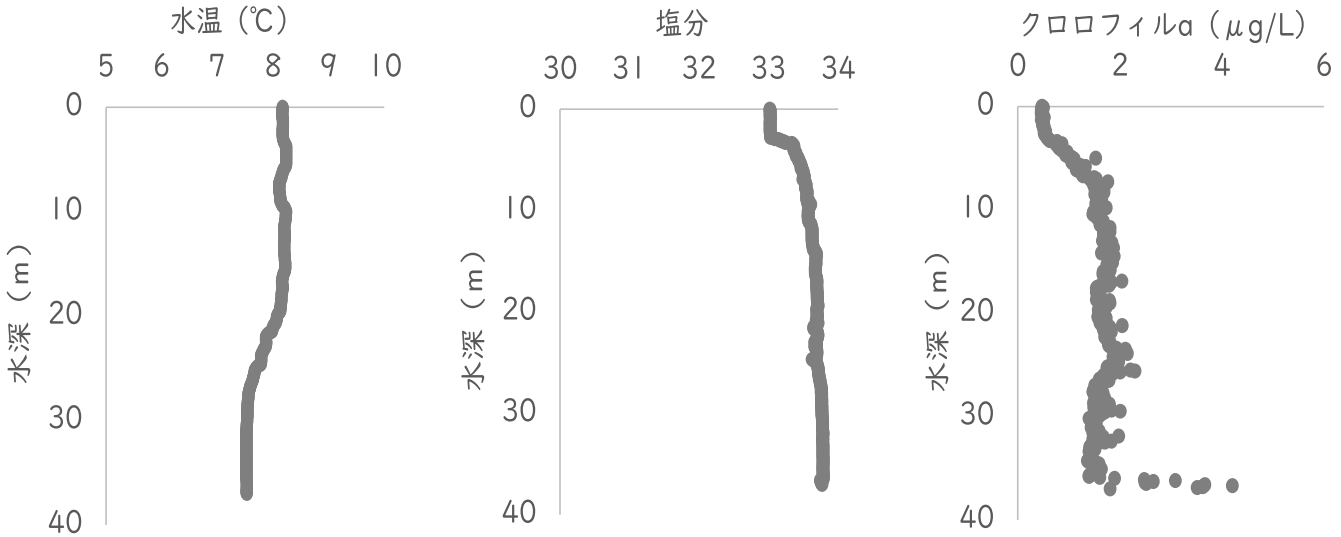

図１：「なか」の水温・塩分・クロロフィルの鉛直分布

◎ヨーロッパザラボヤ付着量調査結果

・部会の桁に設置した試験篭にザラボヤの付着が確認されました。
・試験篭の付着数は１個体で、12 段目の上面に 90 ㎜・19.3ｇのものが確認されました。
・令和２年５月に設置して 11 か月経過しましたが１個体しか確認されず、前年同月の付着数は 29 個体だったことから、令和２年度のザラボヤ付着数は少なかったと考えられます。
・漁業者が 10 月に設置した篭を見せていただいたところ、１篭当たり 10 個体前後の付着が見られ、５月に入れた篭では秋には付着物に覆われてしまい、５月に入れた篭の継続観測だけでは、秋に付着する状況を把握できていない可能性が考えられました。
・３月中旬に設置したザラボヤ付着プレートに、ザラボヤの付着は確認されませんでした。
・令和２年度は年度全体を通してザラボヤの付着数は令和１年度に比べて少なく推移しました（図２）。

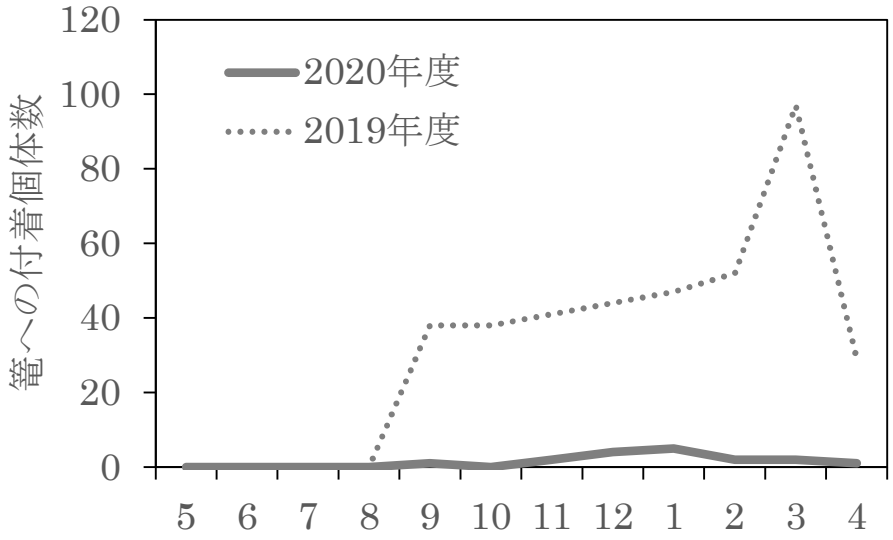

図２：ヨーロッパザラボヤの試験篭への付着数の推移と年度別比較
（2019 年度・2020 年度）

◎ヨーロッパザラボヤ調査は今後継続して実施します。

※調査結果は中央水産試験場 HP からも確認できます。
https://www.hro.or.jp/list/fisheries/research/central/section/zoushoku/tkh4vd0000002m9a.html